

刊夕日二廿月十

常磐每日新聞

定価 一円五銭 郵費別
廣告料 五銭 印刷費 一銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞社



出世の本懐

真織雲山

人間は、生きてゐる間は何か知らず欲求してゐる、これを慾といふので、慾とは人間の生きてゆく原動力であるから、決して慾を否定すべきではなく、たゞ慾に執着する勿と戒しむべきである。

人間は空手で生れて来て又、空手で歸つてゆく約束であるから、たとへ命がけで執着したからとて結局、何一つ得らるべきでなく、その得べき何物も無いのを死ぬほどまでに固着し染愛するのが煩惱のはたらきである。

法便力を以て、四十餘年未だ眞實を説かず」と前提して、佛出世の本懐たる法華經を開顯せられた。この故に法華經は一切經中の王として尊まる。

然らば結局、人間は何を目標にすべきかといふに、この世に生れて來かするしとしてこの自分の仕事をなし遂げることが人生の目的であり、それを爲し遂げたものが、最大の成功者である、これを出世の本懐といふ。

ノット

襟付の時 肩まはし

で襟がつまると身頃にたるみが来て、胸の邊の恰好が悪いのですから、肩まはしは心もちゆつたりをつけるやうにいたします。

彌陀宗、法華經と大經とは納整相容れぬ如くであるも彼れは前後相照して、佛一代の經說中この二大經典が、佛出世の本懐を説かれたものとして、極めて重大な意義を有するものであることが知られる。

法華經は一切のもの皆佛に成り得ることの定義證明であり、大經は信の一路によりて何人も、そこに到り得べき道程が示されてある。

にはあつても、その本懐が金や名譽の一天張りといふのでは尙ほ更ら困りものである。

法華經において前を拂ひ大經に於て後を拂はれた釋尊は、定めし莞爾として涅槃の雲に入り給ふた事と思はれる。われも亦た餘り慾なことを考へず、何の日に命終いたるとも莞爾たり得るだけに、それのもつ出世の本懐を爲し遂げようとするものだ。大にせよ小にせよ、その完成こそは、人間としての最高の愉快であり、最大の幸福なりと言へよう。左りとて初めからテンで出世の本懐といふを持たぬといふ先生にも困つたものであり、有るなり

○同夜景
レコードの洩れ来る窓に赤き灯の早くともれり人さそふらし

○深夜街上所見
準急を待ちあむる人か荷物さげ支那そば屋臺に入りて行きつゝも

○明日の献立
【朝】ゆばとかんぴょうの煮しめ
【晝】いか付焼
【晚】とろろ、焼松茸

常磐歌壇 栗原 北斗
虫の鳴く窓邊によればひそひそと月夜靜かに風わたるなり

平町風物歌(七) 島田忠夫
三味の音の人をさそひし時
過ぎてウエトレス踊るあら
あらしき音

話笑 誰の罪
坊や「父ちゃん
お灸頂戴」
父「坊や、お灸何にするの？」
坊や「母ちゃんか、お客さまの下駄にするるんだつて！」

江戸前料理 倉本
紅葉に近き一日の行樂に
ぜひ錦水の御重入辨當を
御供させて下さい
ぜひ一度御試食下さい
出前！迅速！
錦水
電話四五四番

玉屋洋品店
平町通電話六五六番

貸切の御用命は！
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

市原醫院
平町田町
電話一四四番

運動靴は……
月星靴を
斯界の王實用無比
名入れ金具付き
サービス
金四十五錢より
ゴム長靴は……
月星長靴を
堅牢優美で
かるゝのが特色
小 八〇より
大 二〇〇より
製靴部
運動具部
大塚支店
平町電話七七番

新舊兩町長の

歡送迎會開催

来る廿五日

聚樂館にて

既報青沼伏見新舊町長の送迎會は井上消防組頭橋本中學校長外各團體代表者が發起人となり来る廿五日午後一時より聚樂館に於て盛大に行はれる事になつたので本日會員券五十錢を各區長に配布し多數の出席者を勧誘する事になつた

在米高調査員

本日發表さる

平穀物検査所管内に於ける米穀法改正に依る新調査員は本日左の如く發表された
(平)渡邊佐七 丹忠義
大塚茂(小名濱)黒澤島雄
(四倉)菅野左三 長谷川
林平(植田)須藤留藏(江



町長時代の思

伏見彦衛氏談

斯ふして氣を採んだ三日

市の當日が、非常に好い天氣で近郷近在からの入出が街頭に渦を巻き各商店に押すなりの盛況を見ると、全く胸がスツキリとして氣持りが好かつた。

だから自分は必ずしも當日は午前一時頃に一廻り市内を歩き廻つたものだ、元氣の好い店員、愛嬌豊かな主人夫婦の動きを見ると充分に繁昌振りが判る、そして其後の銀行、郵便局、信用

反對運動に

先づ縣へ陳情

木炭検査移管問題

既報濱三郡木炭組合内に設置された木炭検査の縣移管反對期成同盟會の第一回委員會は本日午後一時より團体事務所樓上に開かれ反對運動の具体案に就いて協議したが大体陳情團として組合長外數名を選び出縣知事に對し陳情を行ふ模様である

競作田

坪刈り

既報石城郡農會では本日富民協會の産米の競作田坪刈を本月廿四日は錦村の小野長藏方廿五日は草野村の古市嘉一氏で行ふと

けふの運動會に

一等入賞兒童名

既報平第一小學校秋季運動會は本日午前八時より校長會我直治氏の開會の辭に始まり合同体操をトップに開始されたが午前中に於ける各學年の一等入賞兒童は左の如よである
△七十米(一ノ)松崎伊平 齊藤吾一郎 馬上勝司 伊關直治 高木定之助(一ノ)四ノ)田口清 新妻富義 中塚正敏 小林茂吉 田敏夫△二百米(五ノ)三ノ)關口正秀 安齊光男 星野隆 山家博高 阿部幸助△四百米(高二ノ)一ノ)佐藤咲藏 佐藤福見 清水久吾△二百米(四ノ)一ノ)菅本進 伊藤敏雄△紅白ボウル(一ノ)一ノ)豊口秀雄

競賣を延期して

滞納支拂を待つ

小川江筋組合の強制執行

既報石城郡小川江筋組合の六年度組合費滞納二十一名(滞納額八十五圓)の強制執行に依る競賣入札は昨廿一日團体事務所樓上にて行ふ事であつたが来る廿八日迄延期し滞納者の支拂を待つ事になつた

磐女音樂會

來月中旬に

磐城高等女學校にては來月中旬音樂會を開催すべく目下中教諭指導の下に練習中である

女子青年

總會

廿九日に

講師は作山氏

平女子青年團總會は来る廿九日午後一時より第二小學校に於て開く事になつたが當日は福島教育新聞社長作山美八氏の講演があると

磐中籠球遠征 磐城中學校籠球部にては今朝の

二日間に亘り郡山商工、郡山OB、福島師範、福島中學と各々試合を行ふ可く本日午後十一時十八分にて國分教諭指導の下に遠征したが選手左の如くである
O 榊原富夫 F 山崎吉次郎 會川正四郎 G 遠藤和久 四家達男

平窪村梨品評 石城郡平窪村果樹合では明廿三日午後一時より農事試験神谷分場で生柿出荷に就いての協議會を行ふと

赤井農事講演 石城郡赤井村農事實行組合では本日午後一時より同村高萩の組合長方で農事講習會を開き郡農會の米山技手が稲の乾燥法並びに大小麥の栽培に就いて講演したと

平裁判所に 平區裁判所に 野球チーム 判所に

ては毎年九月郡山市葉山グランドに於て開催される福島管内裁判所對抗野球戦に出場すべく此程新チームを組織したがメンバーは左の如く来る十一月三日華々しく發會式を舉行來年の試合を目標に猛練習を行ふと

坂田野名坂内吹尻崎
A 石山小桑鹽西矢江松
B 山崎尾谷木澤上嶺田
西松野 小高尾村大上

秘密を知つて居ると

女教員を脅迫

新聞記者を装つて

金をゆする怪文書

本社各員の機智に依り

犯人難なく逮捕

平第三小學校某女教員の手許に十七日付平局のスタンプある左記脅迫状が舞ひ込んだ

記者は最大の秘密を知つて居る者です若し内済にしたかつたら金四十圓を来廿一日午後六時半迄平驛前赤ポストの前へ持つて来て下さい若し履行しないと新聞を賑はす事になります他の記者も目に付けて居りますから注意するやう「註ヤキステヨ」一通通信員

此の書状を受け取つた女教員は別に意にも介せず其儘打捨て、置いた處怪人は昨廿一日午後十二時半頃平第三小學校に電話を掛けてその教員を電話口で呼び出し今晩金を持参するや否やを確めたる爲め女教員は一應面會したき故學校へ訪問されたいと答へた處今は忙しいから學校へは出向けぬとて同教員の自宅を尋ね夕方五時頃訪問すると稱して其儘電話を切つて仕舞つた

救援を求められ

本社が手配

圖々しい怪犯人

捕縛さるゝまで

探偵物語的な興味

女教員は昨日午後四時頃本社に電話を以つて右の事情を訴へ來つた爲め本社にて

は機を逸せず

坂本社員が直ちに兩を衝いて平署に駆け付け吉田田中、陣野の三警官を同行して白銀町の女教員宅附近に張り込み犯人の來るを今や遅しと

待ち構へて居るとも知らず午後五時四十分頃黒詰イリ服を着て髪を分けた一見廿四五才の青年が訪ね來り同教員の案内にて二階に通つた處を見済し三警官も續いて駆け上り有無を云はせず難なく引ッ捕へて直ちに平署に引致

取調べを開始したが口を緘して語らざる爲め直ちに留置場に叩き込んだ

犯人の

素性

師範を半途

情婦に看護婦

犯人は冷たい留置場に一夜を明かし本日早朝より高橋警部補の嚴重な取調べを受

明日の天才

廿三日

今夜は北西の風、曇り勝ち明日は南西の風曇り

今晚の部

- 後六〇〇 (子供の時間) 兒童劇秋演出日K子供會 放送指揮高木秀二
- 後七三〇 ビデオノ解釋講 座 ビデオノマキムムシヤ
- 後八〇〇 歌謡曲唄小梅
- 三絃三代吉二唄久惠三絃 千代
- 後九〇〇 映畫物語「熱砂の女王」仙石雷蹊伴奏

明日の部

- 指揮宇賀味津男
- 後九三〇 滿洲より 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
- 前九、一〇 茶養料理「馬鈴薯の味噌汁煮豆」茶養 研究所
- 前九、三〇 子供の時間 童謡と管絃樂 山本篤子 伴奏 永井八重子
- 前一〇、〇〇 宗教講話

み込み二ヶ月後に誠首され、以来實家である前記草野村に戻り新聞取次業を營んで居た者にて同人の情婦と目される、某看護婦も平署に召喚さるゝ模様である尙ほ同人は猛烈な結核性にて首の邊りにはルイレキを手術したメスの跡が物凄く残つて居る

警中の發火演習

廿八、九の二日に亘つて

植田方面の攻防戰

既報警城中學校にては来る二十八、二十九の二日間植田方面に於て發火演習を行ふが第一日は午前六時三十分平驛前に集合し同七時五分發列車にて出發、西軍は勿來、東軍は植田驛に夫々下車して先づ遭遇戦を皮切りに渡邊村の追撃退却戦に移り最後陣地攻撃をなし中止、渡邊、泉兩小學校に宿

短銃で

親殺未遂

廿六日公判

既報須賀川町馬場東四十三

前二〇、四〇 演劇「菊花の親實と栽培に就ての研究」鈴木櫻二

前二、一〇 謠曲講座 「謠の道しるべ」(四) 實演 櫻間金太郎 解説池内信嘉

後〇、五〇 旅送舞臺劇の午後「嫁おどし谷」阪東新車其他

後一、五〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」法政對明治第二回戦 明治神宮外苑球場より中継

後一、四〇 野球放送なき場合「近江源氏先陣館」市川中三郎外

女腹斬り

ヒス女房の自殺

番地居住食肉商西間木武(三)が本年六月二十二日午後十二時頃小名濱町警署劇場附近の路上に實父松藏(五)を五連發の短銃で打ち殺さんとした尊屬殺人未遂

角力殺人

求刑八年

言渡は廿九日

石城郡警署村上湯長谷小野田炭礦坑夫運吉の妻菅野コイメ(三)は強度のヒステリ

一にて小野田病院加療中昨日午後三時頃カミソリにて腹十文字に撥斬り血沙に染つて絶命した

後六、〇〇 子供の時間 神話劇「天孫降臨」(演出) 東京童話館々會員

後七、三〇 清元「大王川」 淨瑠璃 春千代 三味線定奴外

後八、二〇 箏曲と尺八 尺八 兼安洞童 箏 遠藤操 香三絃 遠藤松香

後八、五〇 義太夫「繪本太功記」淨瑠璃 竹本素昇 三味線 豊竹巴住

事件の公判は来る二十六日午前九時より平支部公判廷に於て中島裁判長係り關口竹内兩判事陪席上田檢事立會増田辯護士列席の下に開廷される

田康磨(三)と素人相撲の事から口論の末出刃を揮つて殺害した殺人事件の公判は本日午後一時より平支部公判廷に於て中島裁判長係り關口竹内兩判事陪席市川檢事立會武田辯護士列席の上開廷事實取調の上檢事より懲役八年求刑され武田辯護士の辯論に移り同一時半閉廷したが判決言渡しは来る二十九日午前九時である

四倉町稻刈り

石城郡四倉町農會では明日八時より全町稻田の坪刈りを行ふ事になつた



【禁轉載上演及映畫】

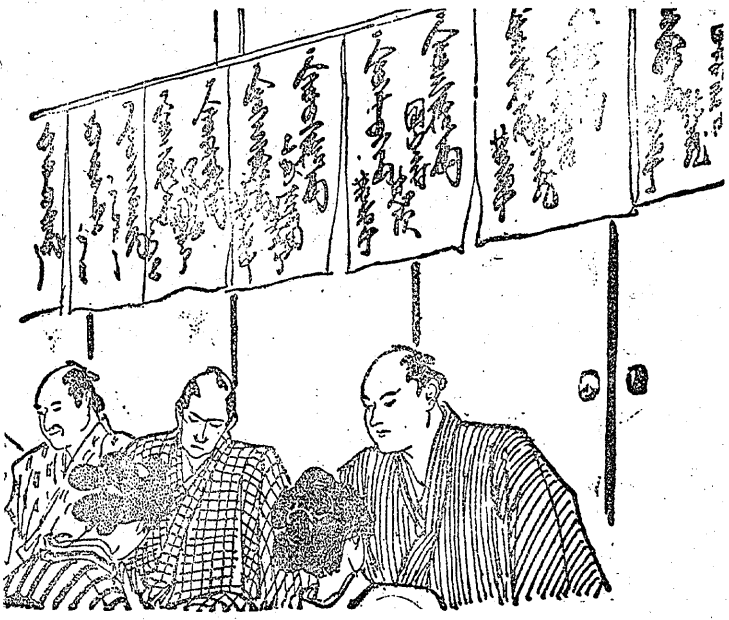
悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第百八十一席 平手造酒

繁藏の計ひで蘇生の思ひ

洲の崎の政吉は宇都宮の甚五郎の出した義理を見てこいつは飛んだ事をした、もう少し親分が奮發すればこんなまづい事もあるまいにと思つたが今更取消して出直して来るといふ事も出来ない、間違ひが出来ねばよいがと心を痛めてゐる時に、甚五郎が政吉を見て甚「繁藏どん、この若い者は何と云ふの」

繁「飯岡の身内でございませう」
甚「ア、助の身内か」
云つた時に政吉はそれへ両手を突き
政「申し遅れましてございませう、私は助五郎の若い者で御座います、政吉と申します」
甚「ウムさうか、俺は宇都宮の甚五郎だ、どうぞ心安くしておくれ、時に助は何うした、なぜ出て来ねえ」
政「ヘ、銚子の御陣屋の御用が忙しく、其處で私が名代として出ましましてございませう」
勘「ア、さうか、陣屋は大切だらうの、併し此處は飯岡と十里と離れて、



顔位持つて来てもよからうまた明日明後日と客人も来るだらう、それまでに出て来いと歸つたらさう云つてくんな、餘り鼻を高くすると宇都宮の爺が、いであつてと斯う附け加へて呉れ」政「畏まりました御座います

うかな」
かう云はれては否とも云へず、御一緒に参りませうと甚五郎について二階へ上る、此處にも毛氈を敷詰酒肴を並べ藝妓に女中が酌をしてゐる、關八州の親分は自身に出て来る者もあり、又名代を寄越した者もある。それを見廻した甚五郎甚「イヨウ皆さん、大きに御苦勞……」
○「是は宇都宮の爺さんでございませうか、よくお出でなすつた」
とまづ上座に直す、時に政吉が驚いたは持つて来たその金額と名を書いて貼つ

郎若い者中、金三十兩上州館林虎五郎、金十五兩若い者中、金五十兩江戸丸屋町甚九郎、これは異名を金看板と云ふその他に二十兩、三十兩とズットと並んで貼つてある、政吉はこれを見て金八兩などを書いて親分の名を出されては大變、是は早く此處を退散しようと思つた、所へ下から上つて来た此家の若い者が
○「宇都宮の親分と飯岡の貸元のピラでござんすが、何處へ貼つてようございませう」
と聞いた、すると一人が△「何處でもよいや、来た順に貼つて置け
○「それではさういたしませう」
と西の方の鴨居に貼出す野州宇都宮甚五郎が三十兩十五兩若い者よりしてあるその後へ助五郎のピラを貼つた、政吉は穴があれば入りた程の心地で下を見た儘顔を上げ赤くなつてゐたが、やがての事ソツと顔を上げて見ると金五十兩飯岡助五郎、金三十兩若い者中としてあるホツと吐息をした政吉、これで親分の恥にもならず又自分共も赤面せずに済む、これと云ふも繁藏の心盡しである、ア、繁藏は大量な人物である、と大いに喜んだが長居は恐れと二階を降りて帳場に來たが

繁「何を云んだ、そんな心配はしなさんな、何かもう歸んなさるか、どうぞ助五郎どんに宜しく申して下さい」
送り出して
繁「政吉さん、ハイ是は受取だよ……」
とソツと袂へ投げ込んだ是は八兩の受取、政吉は再び禮を述べて草鞋をハイたが供をして来た勘太に三八長吉が見えませんから何處へ行つたかとマゴ／＼した

木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九

新築落成開業御披露

秋冷の候皆々様には彌々御清祥に涉らせられ慶賀の至りに存じます。諸て過般弊店の類焼に際しては何彼と御高配を賜はりまして誠に有り難く感謝に堪へません、爾來銳意新築工事中の處此程愈々完成し茲に更生の陣容を整へて再びお華客皆様をお迎へし最善の奉仕が出来る事になりましたので去る十七日より營業を開始いたしましたから何卒倍舊の御愛顧を垂れさせられ度新築落成御披露旁々茲に謹んで懇願申上げます

尚ほ三階大廣間の宴會席御利用に就ては格安の御相談に應ずる外新設食堂部では
牛鍋御飯付 三十五錢
お酒一本 三十錢
で大々的の勉強を致します。
昭和七年十月

平町田町

石川亭
電話四三番

學生服賣出
倉へ取揃 黒に豊富 丈夫な服 温かい學通 提供にて
小學用(長ズボン付) ¥0.80
全……特製品 ¥2.00
中學用特製品 ¥2.90
ふかや洋服店 平町二丁目電話238

吉田眼科病院
平町屋町、電話六八番